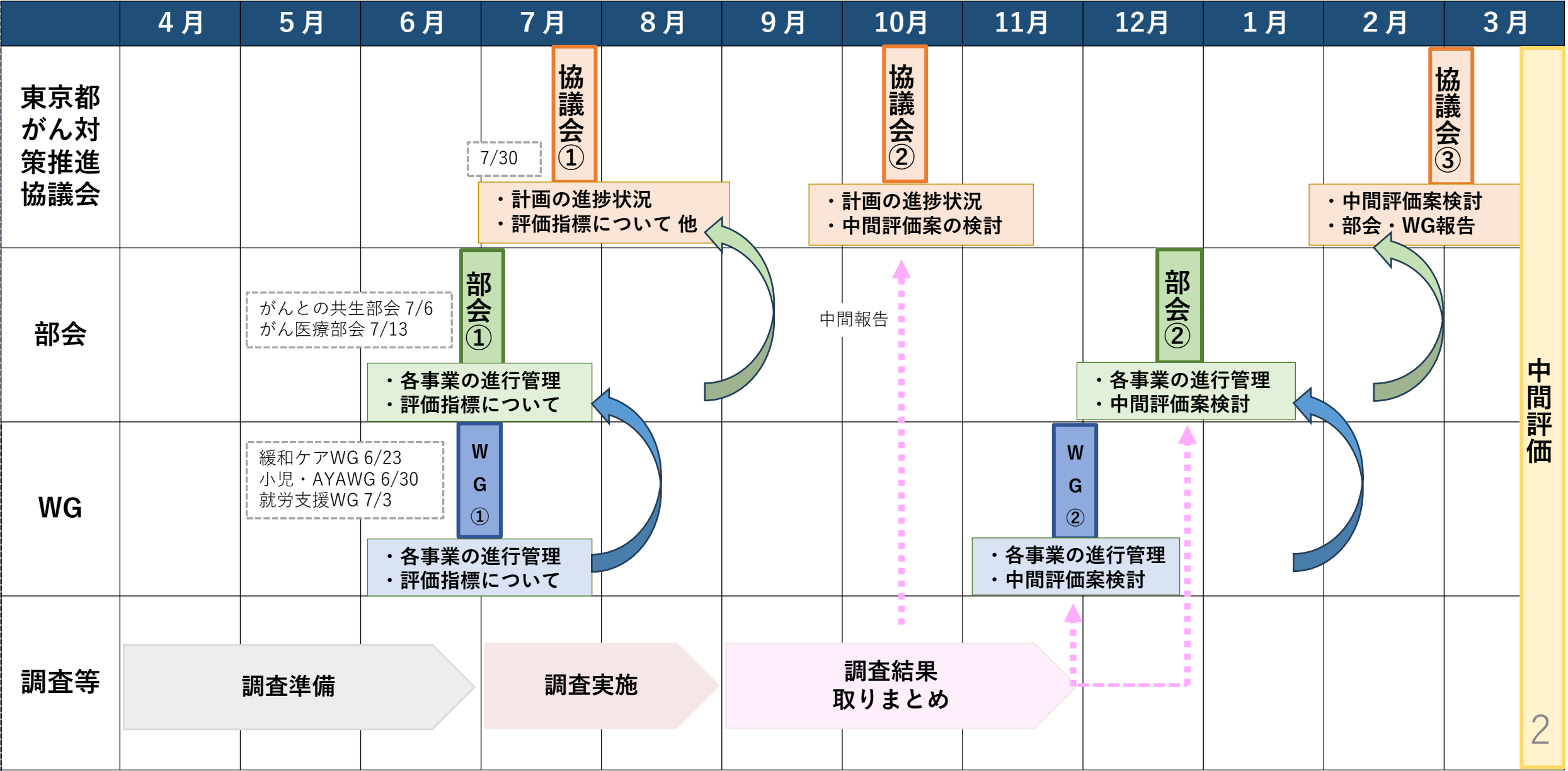


「東京都がん対策推進計画（第三次改定）」
中間評価について

東京都がん対策推進計画（第三次改定）の中間評価について

令和8年3月23日
第37回東京都がん対策
推進協議会資料一部加工

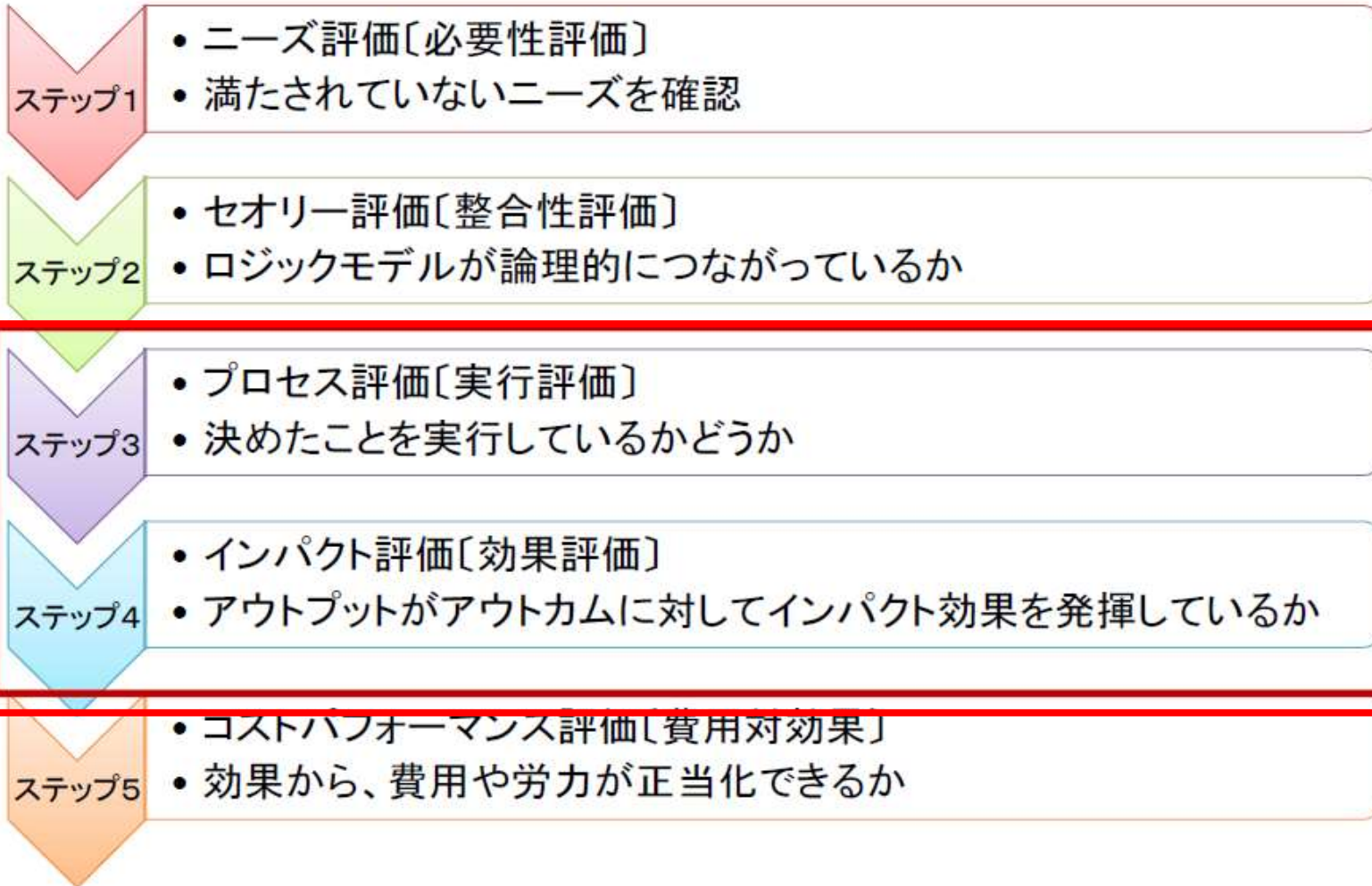
令和8年度スケジュール



中間評価の手順

令和7年10月6日
第92回がん対策推進
協議会資料一部加工

- ロジックモデルを活用してプログラム評価の手順で評価を実施する。
- 中間評価では、プロセス評価、インパクト評価を中心に実施する。



中間評価では
プロセス評価と
インパクト評価を
中心に実施

- 〔参考資料6 第4期がん対策推進基本計画施策に対する取組一覧（令和7年9月時点）.xlsx〕

- 施策は実施されたか、進捗はどうか？
- アウトプットは生まれているか？
- 施策関係者はどのように感じているか？
(関係者ヒアリング)

- | 活動報告(1)～(5)の概要 | | | | | | |
|----------------|----------------|----------------|---------|------------|------------|------------|
| 4 | 活動報告(1)～(3) | 活動報告(3)～(5)の概要 | 4～5の平均値 | 調査票(1)～(5) | 調査票(1)～(5) | 調査票(1)～(5) |
| 1 | 活動報告(1)～(3)の概要 | 活動報告(3)～(5)の概要 | 7.3 | 8.2 | A | |

インパクト評価（効果評価）

令和7年10月6日
第92回がん対策推進
協議会資料一部加工

③ アウトプットがアウトカムに対して、インパクト効果を発揮しているか確認する 〔参考資料7_第4期がん対策推進基本計画測定値判定一覧.xlsx〕

アウトプット指標						
#	取り組みの名称	アウトプット指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最終）	判定
医療提供全般						
21100	【国及び都道府県】地域の事情に応じ、均てん化を推進するとともに、持続可能ながん医療の提供に努め、拠点病院等の役割分担を踏まえた集約化を推進（その際、国は、都道府県がん診療連携協議会等に対し、好事例の共有や他の地域や医療機関との比較が可能なような体制に必要なデータの提供などの協力的な支援を行う）	役割分担に関する議論が行われている都道府県の数	35	41		A
21101	拠点病院等を中心に、患者に対するがんの告知や、インフォームド・コンセントの取得、セカンダリ・オピニオンに関する取組を推進	がん診療にセカンダリ・オピニオンに関する取組を行ったがん患者の割合	34.9%	31.7%		C
21102	【国及び都道府県】診療態勢・がん診断や治療の状況下において、必要ながん医療を提供できるよう、診療態勢の役割分担や、各施設が協力した人材育成や連携体制の構築等、地域の事情に応じた連携体制を推進する取組を平時から推進	BCPに関する議論が行われている都道府県の数 （参考）BCPで整備している拠点病院の割合	19 93.9%	28		A
21103	拠点病院等、小児がん拠点病院等、がんAI活用推進拠点病院等が相互に連携可能なよう体制を整える	都道府県協議会に小児がん、がんAI活用推進拠点病院等が相互に連携可能なよう体制を整える都道府県の数	32			

アウトカムの向上に資する取組が
できているか。
今後は特にCの施策の取組を推進

中間アウトカム指標						
#	中間アウトカム	中間アウトカム指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最終）	判定
21100	医療機関の機能分担を踏まえた集約化を推進し、がんに関する知識の効率的な提供	指定した医師ががんについて十分な知識や経験を身につけていると思える割合	76.7%	89.80%		A

中間アウトカム指標は
A改善傾向（1指標）
C後退傾向（1指標）

分野別アウトカム指標						
#	分野別アウトカム	分野別アウトカム指標	ベースライン値	測定値（中間）	測定値（最終）	判定
21100	全国的ながん診療の質の向上・均てん化	がんの診断・治療全体の総合評価（平均または評価が高い割合）	7.9	8.2		A

分野別アウトカム指標は
A改善傾向（1指標）

アウトプット指標は
A改善傾向（6指標）
C後退傾向（3指標）
*特に、コア指標のC後退傾向（2指標）
について、施策の進捗状況の確認、及び
今後の取組を確認

情報診断

C後退傾向（3指標）

*特に、コア指標のC後退傾向（2指標）について、施策の進捗状況の確認、及び今後の取組を確認

21104	知識及び技術を有する医師が1人以上配置されている拠点病院等の割合 （知識及び技術を有する医師が1人以上配置されている拠点病院等に所属する医師が1人以上配置されている割合）	55.3%	52.5%	C
質の高い治療計画や診断計画を提供するための体制の整備を推進	がん診療に専門医を有する者が1人以上配置されている拠点病院等の割合（がん診療連携拠点病院・専門医ががん診療に専門医を有する者が1人以上配置されている割合）	97.1%	98.5%	A
21105	がん診療に専門医を有する者が1人以上配置されている拠点病院等の割合 （知識及び技術を有する医師が1人以上配置されている拠点病院等に所属する医師が1人以上配置されている割合）	83%	76.3%	C

21100	タイムリーな高度診断	初診時から確定診断までの期間が1ヶ月未満の人の割合	71.5%	70.0%		C

<ポイント>
●分野別アウトカムは向上したか？
●外部要因の影響はあるか？

中間評価の方法について（報告書イメージ）

【全体目標】

「誰一人取り残さないがん対策を推進し、すべての国民とがんの克服を目指す。」

【分野別目標：がん予防】

科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実

～がんを知り、がんを予防すること、がん検診による早期発見・早期治療を促すことで、
がん罹患率・がん死亡率の減少を目指す～

#	最終アウトカム	指標	ベースライン値	測定値（中間）	判定
000000	検診がん種の死亡率減少	がん種別年齢調整死亡率（75歳未満）胃			
000000	検診がん種の死亡率減少	がん種別年齢調整死亡率（75歳未満）女性乳房			
000000	検診がん種の死亡率減少	がん種別年齢調整死亡率（75歳未満）子宮頸			

<進捗状況の評価>

※一部抜粋（例）

1. 個別目標 ※がんの2次予防（がん検診）一部抜粋（例）

がん検診受診率を向上させ、指針に基づく全てのがん検診において、受診率60%を目指す。がん検診の精度管理を向上させるとともに、精密検査受診率90%を目指す。

●分野別アウトカム

#	分野別アウトカム	指標	ベースライン値	測定値（中間）	判定
100003	検診がん種の早期がん割合の増加	検診がん種別早期がん割合			
100004	検診がん種の進行がん罹患率の減少	検診がん種別進行がん罹患率			

対応

- 中間評価報告書では、初めに最終アウトカム指標の測定値に係る評価を記載し、全体目標及び分野別目標の進捗状況を評価する。
- また、分野別の個別目標を評価するために、分野別アウトカム指標・中間アウトカム指標の測定値に係る判定を記載するとともに、個別施策に対して、アウトプット指標の測定値に係る判定を記載し、それらを踏まえ、進捗状況の評価を実施する。
- 上記を踏まえて、がん対策推進協議会としてさらに推進が必要と考える事項を記載する。

●中間アウトカム

#	中間アウトカム	指標	ベースライン値	測定値（中間）	判定
121201	検診受診率の向上	検診受診率			

●判定一覧

判定	A	B	C	D
分野別アウトカム				
中間アウトカム				

A：ベースライン値に対し、改善傾向にある
B：ベースライン値から変化なし
C：ベースライン値に対し、後退傾向にある
D：測定不能

2. 個別施策

●アウトプット

※赤字：コア指標

#	個別施策	指標	ベースライン値	測定値（中間）	判定
121101	より科学的かつ効率的な受診勧奨策を、関係学会や企業等の協力を得て、都道府県及び市町村と連携して推進、受診者の立場に立ったがん検診を受診する上での利便性の向上に努める	受診勧奨実施市町村数※			
121103	職域におけるがん検診について、実施状況の継続的な把握及び適切な実施に向けた課題の整理を行い、必要に応じて、法的な位置付けも含めた対応を検討	指針に基づく検診の実施率			

●判定一覧

判定	A	B	C	D
アウトプット				

<進捗状況の評価>

（指標の判定及び施策の取組状況を踏まえて定性的・定量的に評価を記載）～～～

<がん対策推進協議会としてさらに推進が必要と考える事項>

○メリハリのある分析・評価のためのコア指標の選定

全ての指標を漫然と分析・評価するのではなく、重要な指標に絞ってメリハリをつけて分かりやすい分析・評価をする。「コア指標」を予め選定し、「その他指標」は測定結果のみを掲示し、進捗を把握する。

コア指標 96指標／296指標	指標としての質が高く、アウトカムへの影響も大きい指標 例）年齢調整死亡率／罹患率、がん種別早期がん割合、検診受診率（国民生活基礎調査）等 【選定の基本方針】 ①指標の評価として質が高い。（悉皆性、科学的信頼性） ②最終アウトカムへの影響が大きい。 ③都道府県等の比較が可能となる指標が望ましい。
その他指標	計画で掲示された施策の進捗や効果を把握するために定める指標 コア指標の評価の際に、分析にも用いられる

○都道府県ごとのがん対策の進捗状況の測定・公表と好事例の横展開の推進

都道府県ごとのがん対策の進捗状況を評価するため、都道府県ごとにコア指標を可能な限り測定・公表する。都道府県のがん対策が見える化しながら、地域の実情に応じたより良い取り組みが横展開しやすくなるように取り組みを進める。

○国のがん対策推進基本計画における中間評価の実施方法を踏まえ、東京都においても、コア指標を選定し、施策が計画どおり実行されているか（プロセス評価）、その取組がアウトカムの改善につながっているか（インパクト評価）を中心に検証、評価を実施する。コア指標に基づく評価については、分野別ロジックモデルに対応した形で、各分野の専門的議論が必要であることから、各部会、各ワーキンググループで検討を行い、がん対策推進協議会において評価を行う。

以下の要素を考慮の上、「コア指標」を選定する。「その他指標」は測定結果のみを掲示し、進捗を把握する。

- ・国のコア指標（参考資料 2 参照）
- ・都の独自調査（患者調査、都民意識調査、医療施設等調査）がデータソースとなっている指標

○中間評価に当たっては、評価指標の測定に必要なデータを把握するため、データソースとして位置づけている各種調査を実施する。なお、「東京都がん医療施設等調査」については、地域医療の実態を把握するため、評価の調査項目として、地域の医療提供体制や医療機関間の連携状況等に関する調査項目を加える。

調査名	調査対象
東京都がん患者調査（小児も含む）	がん診療連携拠点病院等、小児がん拠点病院等
都民意識調査	都内全域に居住する都民
東京都がん医療施設等調査 （緩和ケア、小児・AYA世代、就労支援、その他の分野）	全指定病院、緩和ケア病棟設置病院、がん性疼痛緩和指導管理料算定病院、在宅療養支援診療所、地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局、訪問看護ステーション、企業

- ・ 全分野の指標 307 個（再掲を含む）のうち、コア指標は 123 個
（国のコア指標、都の独自調査がデータソースとなっている指標、最終アウトカムは全指標をコア指標として選定）
- ・ 各分野別の設定状況は以下のとおり
- ・ 各部会、ワーキングでの検討を踏まえ、東京都がん対策推進協議会で検討を行う。

分野	アウトプット	中間 アウトカム	分野別 アウトカム	最終 アウトカム	計	所管
全体目標 「誰一人取り残さないがん対策を推進し、 全ての都民とがんの克服を目指す。」	—	—	—	2(2)	2(2)	東京都がん対策推進協議会 がん医療部会 がんとの共生部会
1 科学的根拠に基づくがん予防・がん 検診の充実	34(0)	15(9)	3(3)	—	52(12)	東京都健康推進プラン 2 1 推進会議
2 患者本位で持続可能ながん医療の 提供	68(10)	57(50)	6(4)	—	131(64)	がん医療部会 緩和ケアワーキング 小児・AYA 世代がんワーキング
3 がんとともに尊厳を持って安心して 暮らせる地域共生社会の構築	60(3)	31(29)	7(7)	—	98(39)	がんとの共生部会 就労支援ワーキング 小児・AYA 世代がんワーキング
4 基盤の整備	19(1)	5(5)	—	—	24(6)	主に再掲
計	181(15)	108(93)	16(13)	2(2)	307(123)	

コア指標の設定・検討について

指 標			ベースライン値	目標	データソース
がん医療部会					
	小児・AYA世代がんワーキング				
	分野別アウトカム	小児がん患者のがんの診断・治療全体の総合評価（平均点）	— （基準値なし）	増やす	東京都小児がん患者調査
	中間アウトカム	「がん」と診断されるまでに4か所以上の医療機関に受診した小児がん患者の割合	15.6% （令和4年度）	減らす	東京都小児がん患者調査
	中間アウトカム	AYA支援チームについて「設置されている」と回答した指定病院の割合	30.4% （令和4年度）	増やす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	AYA支援チームについて「知っている」と回答した患者の割合	— （基準値なし）	増やす	東京都がん患者調査
	中間アウトカム	小児がん経験者に対する成人後の長期フォローアップの実施状況について、「実施していない」と回答した指定病院の割合 ※成人と共通	34.8% （令和4年度）	減らす	東京都がん医療施設等調査
	中間アウトカム	長期フォローアップの必要性について「知っている」と回答したがん患者の割合 ※成人と共通	（成人） — （基準値なし） （小児） — （基準値なし）	増やす	東京都がん患者調査 東京都小児がん患者調査
	中間アウトカム	生殖機能の温存療法について説明を受けた患者の割合	72.4% （令和4年度）	増やす	東京都がん患者調査

コア指標の設定・検討について

指 標			ベースライン値	目標	データソース
がんとの共生部会					
小児・AYA世代がんワーキング					
最終アウトカム	日常生活をがんにかかる前と同じように過ごすことができていると回答した患者（手術や薬の副作用などはあるが、以前と同じように生活できていると回答した人を含む。）の割合 ※成人と共通		（成人） 66.8% （令和4年度） （小児） — （基準値なし）	増やす	東京都小児がん患者調査
中間アウトカム	在宅療養中において改善が必要なものとして、「自身が介護を受けられる環境」「在宅療養に必要な設備」と回答したAYA 世代の患者の割合		48.2% （複数選択） （令和4年度）	減らす	東京都がん患者調査
中間アウトカム	復学後に困ったこととして、「勉強不足により授業についていけない（いけなかった）」と回答した保護者の割合		36.8% （令和4年度）	減らす	東京都小児がん患者調査
中間アウトカム	兄弟（姉妹）から、生活する上や心理面での不安を「あまり感じなかった」「全く感じなかった」と回答した保護者の割合		20.6% （令和4年度）	増やす	東京都小児がん患者調査
中間アウトカム	AYA 世代のがん患者の身の回りや生活面への支援・療養環境として改善が必要なものとして、「通院時に患者本人の子供を一時的に預けられる環境」と回答した病院及び在宅療養支援診療所の割合（在宅療養中の時期）		【指定病院】 63.9% 【在宅療養支援診療所】 36.4% （令和4年度）	減らす	東京都がん医療施設等調査